



学校教育目標 社会に貢献しながら、
自立する生徒の育成
～気づき、考え、実行する～

やまゆり

校訓 「和の心」

指導重点

- ① 居心地がよく、やる気のある
学級集団・学校づくり
- ② 確かな学力の育成
- ③ 健やかな身体の育成
- ④ 豊かな心の育成
- ⑤ 生徒の良さを伸ばし、課題を
解決するための「連携・協働」を推進する

1学期もあと1か月！

道志の山々は、すでに薄緑色から濃い緑色に模様替えが終わり、本格的な“夏”の到来も間近です。

ただ、今年の梅雨入りは、例年以上に“遅い”ようです。ジメジメと蒸し暑いこの季節は、日本特有のもので、梅の実が熟する頃に降る雨なので、この名前(梅雨)がついたそうです。

この時期、生活環境や身体を清潔に保って、健康に留意しましょう。感染対策も忘れずにお願



いします。十分な睡眠と栄養を摂って、この時期を乗り切りましょう。今後とも、保護者の皆さまのご理解とご協力のほど、よろしくお願いします。

自分の居場所を探す 子供たち

重大な事件を引き起こす子供たちは「自分には居場所がなかった」とか「自分なんか居ない方がよかった」等と話すそうです。もちろん、物理的な居場所(部屋、教室等)はあるのでしょう。

ただ、周囲の人たち(学校、家庭、地域)から“愛されている”とか“必要とされている”という実感が持てなかったとしたら、子供たちは、孤独や不安を感じることでしょう。

つまり、そんな子供たちは、“心の”居場所を求めているのです。

今、私たちの学校や家庭は、子供たちの“心の”居場所となっているのでしょうか。私たちの生活は、“モノ”にあふれ、大変便利になりました。家庭では、スイッチ一つでほとんどのことができ、高度に機械化、情報化された社会となっています。

子供たちの家庭での役割(手伝い)は、意識して考え

ない(探さない)限り、“ほとんどない”といってい

いでしょう。“家では、勉強や習いごとさえしていればよい”といった家庭も多いのではないのでしょうか。

勉強の大切さは、昔も今もあまり変わりありませんが、家庭での子供の位置は、だいぶ変わってきたように思います。子供でも“必要とされている”とか“頼りにされている”と感じることで、家族との結びつき(連帯感)を強くするように思います。

問題を起こす子供たちは、“ある集団(徒党)”をつくり、そこに居場所を求めます。もしかしたら、その場所

三者懇談が行われます！

7月18日(木)と19日(金)の2日間(14:00-16:45)、三者懇談(教育相談)を行う予定です。学校での我が子の様子を知るよい機会です。

1年生は、中学入学から約4か月が経ちます。学校生活にも慣れ、始めの頃とは違い、変化が表れてきています。2年生は、勉強に部活に頑張っている生徒がいる一方で、難しい時期でもあります。3年生は、進路選択に向けて、より具体的に考え始める時期です。今回の懇談では、このような話題が中心になることでしょう。

ただ、学校の話ばかりでなく、一人ひとりのよさを確認できる場にしたいと考えています。ご家庭での様子を保護者の皆さまから学年職員に伝えてください。例えば「家ではよく手伝いをしてくれますよ」とか「最近、家庭学習をするようになりました」等々。いずれにしても、この場を大切な機会ととらえて、子供たちの望ましい発達(成長)を期待しながら、心のつながる懇談にしていきたいと思

